

▼ 受賞者一覧 (敬称略)

| 最優秀賞 | | |
|---------------|----------|--|
| おの 小野 瑛士朗 | 伊達東小 6年 | |
| さとう 佐藤 ゆうみ | 梁川中 2年 | |
| 優秀賞 | | |
| ただの 唯野 柚月 | 伊達小 6年 | |
| さとう 佐藤 勇希 | 栗野小 5年 | |
| すずき 鈴木 桜絵 | 桃陵中 2年 | |
| さいとう 齋藤 ひ 日向子 | 月館学園中 3年 | |

| 優良賞 | | |
|------------|----------|--|
| ながさわ 長沢 健太 | 大田小 5年 | |
| やました 山下 紗奈 | 保原小 5年 | |
| やまだ 山田 一歌 | 上保原小 5年 | |
| わたなべ 渡邊 蒼依 | 掛田小 5年 | |
| さとう 佐藤 滯 | 梁川中 3年 | |
| さとう 佐藤 空道 | 松陽中 2年 | |
| いぬかい 狗飼 梨央 | 霊山中 2年 | |
| 伊東 未徠 | 月館学園中 1年 | |

| 佳作 | | |
|------------|--------|--|
| こばやし 小林 愛理 | 伊達小 5年 | |
| かんの 菅野 桃牙 | 柱沢小 6年 | |
| かんの 菅野 愛 | 掛田小 6年 | |
| さとう 佐藤 凛 | 小国小 5年 | |
| おの 小野 将 | 伊達中 1年 | |
| わたなべ 渡邊 裕奈 | 伊達中 2年 | |
| まくち 菊池 鳳聖 | 梁川中 1年 | |
| さとう 佐藤 琳 | 霊山中 3年 | |

伊達市民憲章 (抜粋)

- 一 まもりましょう
ふるさとの自然と歴史を
- 一 つなぎましょう
世代の絆とたしかな信頼を
- 一 そだてましょう
支えあいと思いやりの気持ちを
- 一 きずきましょう
学ぶ心とゆたかな文化を
- 一 めざしましょう
すこやかで活力のあるまちを

伊達市民憲章作文コンクール

テーマ「まもりましょう ふるさとの自然と歴史を」

伊達市民憲章作文コンクールは、平成 29 年度から実施しており、今年度で 6 年目を迎えます。市内の小学 5、6 年生と中学生を対象に作品を募集しました。小学生の部 404 点、中学生の部 291 点の応募があり、11 月の審査会で 22 点の受賞作品が決定しました。

選ばれた作品はどれも素晴らしく、伊達市をより良くするために自分にできることを一生懸命考えている作品が多くありました。各部の最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。



▲受賞作品をウェブで読む

☎ 総務課総務係 ☎ 575-1239

「行ってきます。」
家の玄関を一步踏み出すと、春には少しピリッとした空気の中に、梅の花がポツポツと咲き始めようとしている優しい気配。初夏には、学校へ向かう道にある桜並木の若葉が生い茂り、ムツとした空気をいっぱい溜めこみ、一気に爆発させたがっている、いたずらっ子のような気配。夏本番には、我がこそが王様だと言わんばかりの、どこの地域より力強い熱気。秋には、オレンジ色の柿の実がたかたか、見るものを圧倒する

ような輝きを放つ。冬には、凍てつく寒さにちよっと怯むけど、背筋が伸びるような緊張感とこの地域の冬の匂い。私は、そんな伊達市の風景が好きだ。
そして、学校に向かう道では見守り隊や地域の方がたくさん声をかけてくださる。学校の行事を知ってくださっている、私は吹奏楽部なので出ないのだけれど、「中体連がんばってね。」などと声をかけてくださる。出ないけど「頑張ります。」と答えて自然とんだか嬉しくて笑顔になれる。そんな人があたたかいところも大好きだ。
伊達市の市民憲章を読んでもみると、ほとんどが、私が日常でよく体験し、実感できている気がした。だが、よくよく考えてみると、それは私ではなく他の誰かが優しさと思いやりを持って発言し、行動してくれていたことを、たまたま自分が受け取ったにすぎないことに気がついた。朝、いつもゴミを拾ってくださる方や、声をかけてくださる見守り隊の方。私の大好きな花やこの町の風景を守るために手入れをしてくださっている方。そういった皆さんの方が、人や町が輝くよう頑張ってくれていることに初めて気がついた。
それを思った時、私もこの伊達市の一員として何かできることはないかと考えた。とりあえず手始めに、散歩の際に自分の家の近くの川の側のゴミ拾いをしてみた。始めてみると、案外

ゴミは多く、すぐにゴミ袋がいっぱいになった。これでは、川の水を汚し、いろいろな生物や植物の命を脅かし、私の大好きな風景をうばってしまうのではないかと恐ろしくなった。
私一人の力では、四十五リットルごみ袋一つが一杯だったのが、これを家族や身近な人に話し、連携し、町にゴミが出ないようにするにはどうしたらいいか、ゴミを捨てさせない為には何ができるかを考え、この小さな渦を少しでも大きなうねりに変えて、少しでもゴミを減らしていけるよう、一步一步行動に移していけたらと強く思った。
そしてそうした一歩が広がっていけば、伊達市の自然を守ることにになり、それがこの町に住む人々のあたたかさや優しさ、伝統、文化をずっとずっと守っていくことにも繋がっていくのだと信じた。



中学生の部
最優秀賞



梁川中学校 2年
佐藤 ゆうみ さん

「小さな渦を 大きなうねりへ」



小学生の部
最優秀賞



伊達東小学校 6年
小野 瑛士朗 さん

「モモのふるさとを守る」

ぼくが住む伊達市箱崎地区は、春になるとサクランボの花、リンゴの花、ナシの花、そして、鮮やかなピンク色のモモの花と、果樹の花が次々に咲いていきます。ぼくの家は、代々続く農家で、果樹の苗木や実の生産、販売を行うのが仕事です。だから、うちの畑ではいろいろな種類の果樹が育っています。その中にはもちろん、モモの木もたくさんあります。
どうして、伊達市ではモモを育てている農家が多いのか、その歴史を調べてみました。伊達は元々、おかいこ様で有名な場所です。

た。それが、明治二十四年頃から、おかいこ様の代わり伊達市の旧伏黒村、箱崎村、高子村でモモのさいばいを始めたようです。つまり、春になると伊達市がピンク色に染まるのは、もしかしたら、ぼくの先祖が苗木を植え、増やして、伊達市に広めたからかもしれません。ぼくも、伊達市の人々が大切に受け継いできた桃畑を、大切に守ってきたいという気持ちが生まれてきました。
どうすれば、先人が築いてきたモモのふるさとを生かすことができるのか。まずは、農家である父に話を聞いてみました。
次に、ぼく達にもできることです。ぼく達は去年、学校で、総合的な学習の時間に伊達地区の果物について調べました。伊達地区の果物を守るために大切なことと、ぼく達が話し合っ

と、ぼく達が話し合っ出した答えは、「伊達の果物をよりたくさんの人に知ってもらい、買ってもらうこと」です。そのために僕たちができることとして、果物売り場に置くポップを作りました。果物がおいしくなるようにどんな工夫をしているのかや、安心して食べられるように検査をしていることなど、インタビューしたり、調べたりして分かったことが書いてあります。今年の夏、そのポップは、学校の近くの直売所や「んめーべ」に飾ってもらいました。お店を訪れたお客さんは、そのポップを見て、伊達のモモがどうしておいしいのか、その秘密を知ってくれたと思います。
モモのふるさとを守るためには、農家の人だけでなく、ぼく達一人一人も、できることを頑張らなくてはなりません。伊達市みんな、大切なモモを守っていきましょう。